

12

Kenya Nakazawa

things

Edition

TAKE FREE

ご自由
にお持ち帰
り下さい。

Edition
No.12

2020年12月 発行
発行人 / 佐藤大輔
発行 / 株式会社 宅配広告社
〒164-0013
東京都中野区弥生町 4-25-4
南中野天野マンション 1 階
TEL.03-5328-1700
FAX.03-5328-1715
<https://takukou.co.jp/>

無断転写、複製、複写の一切を禁ず

Contact
edition@takukou.co.jp



宅配広告社
TAKUKAI AD CO.

中澤健矢

(なかざわけんや)

38歳

S

安室ちゃんの1日前なんですよ。

この1年間で同じ生年月日の人に4人も出会ったんですよ。仕事で知り合った人達なんです。歳がひと回りずつ違っていているんですよ。なんか不思議ですよ。自分の誕生日だと思ったら、各所でやっているんだなと思ってね。出身は千葉県の市川市。もう完全なベッドタウンです。江戸川を越えたら東京なので、皆んな都内に出ちゃう。千葉県の反対側へ行ったことなかったんです。



うちは第3世代か

な。おじいちゃん、おばあちゃん、両親、僕たち、父方の祖母が住んでいるような環境でした。親父は都内の中学校の先生。金八先生みたいな不良だらけの学校の社会科の先生なんですけど、他に生活指導とバスケット部の顧問もしていたので、ほとんど家に居なくて、母親も港区の養護学校で先生をしていたので祖父母に育てられました。

S

それが突然、エジプトに引越すと言いだしたんですよ。しかも、3ヶ月前に。

カイロにある日本人学校の先生に親父が採用されたんです。その頃の僕はサッカーにもう夢中で、じきに小学4年生になってサッカー部に入れるんだと、とにかく楽しかったですよ。だから、もう大泣きで。サッカーが出来なくなっちゃうと思ったから。だって、イメージ、ピラミッドと砂漠しかないじゃないですか。それまでは千葉県しか世界は無いんで。



ナイル川

あるじゃないですか？そこには中洲があつて、マンハッタンみたいなどころ、マンハッタ

ンほど広くないけど、逆に椰子の木とか緑だらけで、大使館があつたり、海外の人達が住むような環境で、僕たちの暮らすフラットもそこにあつたんですが、カイロ国際空港に降り立って車で中洲へとパーって通った時に、見たことないような巨大なスポーツクラブが見えてきて、ヨーロッパのような芝生のサッカーグラウンドが4面並んでいたり、その奥には競馬場や乗馬クラブがあつたりで、それを見た瞬間に一気にヤバイと思つて「サッカー環境、全然いいじゃん！こっちの方が」ってね。調子いいですよ。僕。



カイロっ

て、何やつてもホコリがスゴいから、いつもボヤつとなつて

いる感じなんですよ。渋滞とかもスゴいんで、夜中までクラクションと車の音、その車のヘッドライト。なんか知らないけど、ずっと車がある、鳴っている状況。信号はあるけど動いてないんで、壊れて



スーパーマーケットはあるけど、

果物とか野菜をロバ車を引いて売りにくるんですよ。ロバ車といっ

てもただの台ですけどね。その上に果物をいっぱい乗せて売りに来るんですよ。街中で売っていて、ハエだらけで、基本ハエとの戦いみたいな。そんな中にスイカ屋さんがあつて、スイカが減茶苦茶でかいんですよ。もう20円とか10円で売っていて、僕が「スイカ下さい」って言うとかくれるんですよ。だから、毎日行っていましたね。



日本人学校は中洲からスクールバスで1時間ぐらいか

な？ギザのピラミッドから数百メートルぐらいのところにあるんですよ。行くにはちよつとぐるっと回るんですけど、絵としたらすぐそこにありました。

辺りは裕福じゃなくて、まあ、大体そうなんですけど、エジプトを見るとね。レンガ造りのような家があり、目の前に川があつてドブを超えたような臭いが常にする。ブクブクといっているところがあつたり、死んだ牛が捨ててあつたりとかね。「この子たちが救われます。あなたの百円で」の絵みたいなのが、もう普通に生活している。ただ、安定しているんですよ。スラムとかではなくて、それが普通なだけ。それが子供ながらに切

なくて、汚れて鼻水が垂れているけど、無邪気に手を振ってくれたりするわけですよ。初めて貧富の差っていうか、国の差というか、それは、すごい毎日感じるんですよ。でも、そこには、どんな状況になってもドッシンと巨大な謎が毎日横たわっている。いてくれるわけですよ。それが不思議でしたね。毎日、日々のなかで、いつまで経っても。そんな場所に学校はありましたね。



ハンハリー市場。そこは親父が

ハマっていて、言わばチョー迷路です。入ったら一人で出てこれない、目印が分かんないと言われていて、住居と店が合体した、ちっちゃいのが、いっぱいあって、盗まれたものとか売っているんです。親父はどんぼ石っていう宝石が好きになって、だから、行くんですけど。その時は3年目とかだったから、関係も出来ていたし、道もわかっていたしね。エジプトってその場で買うつてことがないんです。1日目はお茶を飲んで、関係ないこと話して、2日目にまた行つてみたいな、時間軸が全然違うので。結局は買つてくるけど、それってヨーロッパの美術館のカタログに載っている奴なんですよ。なんで、そこにあるんだ（笑）っていうのが奥から出てくるんですよ。そういう文化です（笑）。



現地の子供達とサッカーをしたけど、友達って感じにはならなかったですね。完全に日本人の社会で生きて

いたので、その壁は破れなかったですね。サッカーで仲良くなった奴とかは、携帯もないし、メールとかもないから、いつ来るか分からないけど、毎日いるから会う。それで遊んでいましたけど、一度ケンカになってね。ちよつとしたケンカがややこしいんですよ。要は、国同士のことになっちゃうんですよ。現地の子に、ちっちゃい子がボール取られてね。ただ、からかっていただけなんだけど、僕が殴りかかったことがあったんです。そしたら、大使館と向こうの大使館とみたいなことになってしまつてね。だから、めんどくさいんですよ。いつの間にか大人が勝手に進めているから分かんない。だけど、そこ、すごく守られていた。二重三重に。日本人は。



日本人っ

てだけで、まず良い世界だと。ソニーだったりトヨタだったりと、企業が作ってくれた日本のイメージがあつて、で、クオリティが良いと。その日本人の1世代、2世代前の方々が作ってくれた日本という恩恵をおもいっきり受けていた感じはありましたね。



日本の大学って初めに専門を決めるじゃないですか。それがちよつと、やりたいことが分かんなかったんですよ。中学2年生

の時に帰国して、中学、高校とサッカーをやっていたけど、このままずっとやっているとかなかったですね。もつと中身を充実させようと思ったんですよ。もうちょい文化的というか、サッカーじゃないものをやつていきたいなって、何故かあつてね。ハインリヒ・シュリーマンとかインディアナ・ジョーンズとかの影響を受けていて、古代史とか発掘とか、面白いよなと思つていたし、ファッションも好きだった。海外の街角でサツと歩いている人の姿とか、それが強烈だったんですよ。その人がその人なりに着こなしているのが好きで、それが街角の一風景、ヨーロッパなんか特に、エジプトもそうなんですけど、空気感というか、映画の中に迷い込んだ感覚がスゴくあつたので、美術にも興味があつたんです。自分で表現することに。その二つで、どちらかを決めきれなくて「なんか決めらんねえよ」と思つていた時に、アメリカの大学のシステムを勧められて、アメリカの大学は最初何でも試せる。後で選考を決めるつてね。それでフィラデルフィアにある大学に行き、最終的には美術を選択したんです。



日本の大学生は遊ぶつていうか、人脈を広げるみたいな感じがあるじゃないですか？

それが全くなかつたんです。もう課題だらけなんですよ。ただ、アメリカ人だつて疲れた時は、近くのバーへ飲みに行くとか、ピザを食べに行くとか、映画を観るとかね。ありますけど、基本はもう勉強つていうか、そっちの方を集中してやる環境でしたね。



ドローイングクラスとかも考えることがでつかいんですよ。アメリカ。普通に実寸サイズで絵を描いてこいつていうんですよ。全部、実寸

サイズなんですよ。でっかいニュースプリントっていう紙を、部屋の壁一面にくっ付けて、それができる部屋だったので、ずっと課題をやっていました。だから、余計に空いた時に行くパーティとか面白かった。そういう人達ばかり集まってくるから。逆にチャラチャラ系っていうか、アメリカ映画にあるようなフラットパーティーって、寮でやる文化があるんだけど、そういうアメリカのおバカ学園生活には行かなかったですね。そんな生活でした。

い、なんか、僕、ガングンをやっていたからね。あのー。やったことがないんだけど、やりたいんだ」って先生に言っ

て、やる気あるからね。いろいろ教えてくれて、言葉のこともケアしてくれたんです。同級生もね。彼らは言葉ができないっていうのを全然何とも思わないんです。そういう奴いっぱいいるから、フォローしてくれるし、教えようしてくれる。それが僕のキャラとかじゃなくて、やった作品を見せることによって増えてきたんです。作品が僕の道を開いてくれている。コミュニケーションの道を、って感覚があったんですね。アートって分からないけど、自分が良いってものをやると、それがコミュニケーションツールになってくれた。言われたんです。ドローイングの先生に「とにかくやり続けなさい。やることによって、失敗とかそういうのはなくて、その一つやったものが、次のところに導いてくれる」と「だから、それが良い悪いじゃなくて作り続けなさい。ただそれだけだ」ってね。今こう話していると、あの時の言葉がいろいろな意味を持って響いてくるね、不思議と。うん、そう、今からやろうとしていることに、どんどんつながるし、何だか勇氣も湧いてきた（笑）。

今、手元にあるご縁と未知なるご縁に感謝しつつ：進みます！



組や 京都
中澤 健矢

Instagram @kumiyas77
本の紹介 @kumiyas55
言葉の紹介 @kumiyas55
表紙の紹介 @kumiyas999